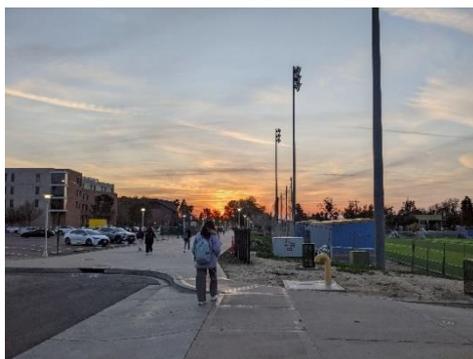


留学先:カリフォルニア大学リバーサイド校(アメリカ)  
留学期間:2022年9月～2023年3月

## 人との出会いの大切さ

カリフォルニアでの生活が終わり、日本に無事に帰国することができました。日本に帰国してからはアメリカで出会った友人やホストファミリー、先生方の存在の大きさを日々感じています。私は特にコロナウイルスの蔓延と大学入学が重なってしまい、日本では全く友人を作ることができませんでした。人との交流が制限されるなか、私はひたすらに授業の課題をこなし、日々の大学生活を耐え忍ぶように過ごしてきました。常に漠然とした未来への不安を抱え、自分の実力不足や自信のなさに日々打ちひしがれていました。そんな中、両親の勧めもあり、英語力向上のために留学をしようと決意しました。



夕焼けのUCR

留学をする条件としてTOEICでの点数が必要でした。そのため、留学をしようと決めてからはTOEICの勉強を主にしていました。TOEICの点数が上がるにつれ、英語力に自信を持つようになりましたが、Duolingoという英語の試験を受け、自分が全くspeakingとwritingができないことに気づきました。どうにかして克服したいと思い、国際教育センターに相談した結果、英語が話せる外国籍の先生を紹介してもらい、先生が英会話を教えてくださいました。

留学をして初めの1ヶ月間はとても大変でした。海外での生活に慣れていなかったのもそうですが、ホストファミリーや先生などの英語が全く聞き取れなかったからです。英語を聞き取れないと話すこともできないので、私は人との出会いを避けるように、一人で淡々と英語の勉強をしていました。また、最初の400クラスの授業ではクラスメイトとの交流も上手く行かず、さらには先生からクラスを下げることで提案されてしまいました。自分のspeakingとwriting力を考え、渋々クラスを300に下げましたが、そこには思いもよらない出会いがありました。



留学初期・城西国際大学の生徒とランチ



留学初期・初めは不安から

300クラスの授業に通うようになってから一番初めに目に付いたのが、後に大親友になるクウエートの友人でした。その友人はとても静かに授業を受けていて、あまりクラスに馴染んでいるように見えませんでした。私は友人になるチャンスだと思い、勇気をだしてランチにさそってみました。そうしたらその友人は快く私を受け入れてくれました。私はまだ英語を話せなかったのですが、友人はいつも傍にいてくれました。友人は私をよく、ボウリングやショッピングなどに連れて行ってくれました。日々友人と共に過ごしていたら、1ヶ月が経ったころには電話をして話せるようになりました。そのころから徐々に英語を話すことが好きになっていきました。また、友人はとても明るく、フレンドリーに私と接してくれました。何か問題があっても、大丈夫だと言ってくれ、常に私に対してポジティブでいてくれました。そのような考え方や生き方からとても大きな影響を受けて、私自身も少しずつ明るく、自信を持ち、前向きな性格に変わっていきました。この友人との出会いは私を大きく変えてくれました。その変化には他の友人や先生も驚き、感心してくれました。



休日のおでかけ



良い出会いと別れ

秋のクォーターが終わり、友人との別れもありましたが、友人が与えてくれた影響のおかげで、冬のクォーターでたくさんの友人ができました。毎日出掛けたり、遊ぶ予定があったりと、留学が終わるまでの日々はあっという間でした。



楽しいクラス!



ビリヤードで勝負!!



友人とディナー

最後に、これまで私の留学を支援してくださったみなさんにはとても感謝しています。当初は英語力の向上だけを考えていましたが、それ以上に大切な出会いがたくさんありました。留学を終え、日本に帰ってからはとても大きな喪失感を味わっていますが、日本でもより多くの友人を作り、世の中を明るく照らせるようになりたいです。



友人と日本に帰国



日本で再会